



第7回研究会 2020年2月1日

ひさしぶりの開催となったスパルタンイングリッシュ第7回の発表者は、青森市立沖館中学校の工藤美恵先生です。工藤先生は、青森の授業研究会にも熱心に参加されており、そこでも授業を公開するなど活躍されている先生です。今回は、授業改善のためにぜひ弘前の先生からもご意見を頂戴したいということで、わざわざ青森からお越しいただいての授業公開となりました。公開していただいた授業は、中学校1年生の2学期、三人称単数 be 動詞を導入する授業内容です。

3学期の忙しい時期ではありましたが、合計7名の参加がありました。

授業者から

- ▶ he/she の導入の授業である。
- ▶ 授業会の2~3分前から単語の小テストを行う形で授業が毎回スタートすることになっている。
- ▶ その後、ビンゴ、New Words、文法の説明という流れの授業である。
- ▶ 三人称の he/she を使って言語活動を行うために、ペアでお互い自己紹介をした後に、得た情報を使ってグループのメンバーにペアを紹介するという活動を行う。
- ▶ ただ、授業日が2学期の9月ということで、クラスメイトのことは大体知っている状況である。分かっていることを自己紹介するのは、意味がないので「実は○○」のような意外なことを話すように指示した。

当日の流れと感想

導入

(1) 単語テスト

- 30問のテスト。
- 高校入試に出現する語彙を選定し、教科書の単語でそれに該当するものはスペルアウトさせ、それに該当しないものは、日本語で意味を書かせる形式のテスト。
- 終わったらペアで交換して採点。
- 練習として授業で同じものを3回行い、4回目は Big Test として評価の対象とする。

(2) ビンゴ

- 浜島書店の Let's Enjoy BINGO を使用。
- 5ラウンド行う。
- 誰でも参加できるように、最初の文字3文字をいう。
- 早くビンゴになった順に点数が与えられ、ペアでその合計点数を競う
- 勝った人は、付属の世界地図上でひとつ進める。Where are you? という表現を使って生徒とインタラクション。



(3) チャンツ

- NHK CD BOOK 新基礎英語 1 チャンツでノリノリ英語楽習!を使用。
- 1回目、読みの確認→2回目、聞いて2回繰り返す→3回目以降、CDをかけて生徒にやらせてみるという流れで指導する
- Lesson で使う表現が入っているチャンツを使うようにしている。(今回は Is this～?)

参加者から

- 単語テストについて、意味とスペルを書くテストのようだが、音声化するテストはしないのか？1年生の段階であれば、まずスペルを見て音声化できることが大切だと思う。
- 30問は多いと思うかもしれないが、自分は50問の小テストを自作して実施していた。暗記は多いほうが良いと思う。
- ビンゴとチャンツを両方やるのは多いのではないかと？音楽がないと英語が言えなくなるということも考えられるのでチャンツはいらぬのではないかと。
- What day is it today? や What is the date today? と聞くのであれば、黒板に書いておかないほうが良いのではないかと？
- チャンツの時にスクリプトを配布しているようだが、文字を見せないでやってみてはどうか？文字を追わせるような活動にしないほうが良いと思う。小学校では、文字がない形でチャンツを行っているので、できると思う。アウトプット急がないように心がけるほうが良いと思う。
- 中学校の先生は、文字から入る傾向にある。十分に音声を聞かせず、文字に行く人が多い。一方、小学校の先生は、文字に頼らず音声から入る指導が一般的である。言語習得の流れからしても、音声から文字であるので、中学校の先生も、音声から指導に入るスタイルを意識するべきではないだろうか？
- 単語テストの数が30問は多いのではないかと？6つくらいが限界ではないかと？
- テンポの良い授業は魅力的であるが、r や th など、注意が必要な発音については、もっとゆっくり丁寧に話して聞かせることが必要ではないかと？

New Words

- 自作のパワーポイントを使って単語の導入を行う。
- まず、発音と意味の提示→英語のみを表示して発音を言わせる→日本語を提示して英語を言わせる

参加者から

- 生徒にとって優しいフォントを使っているのが良い。できればハンドアウトも同じフォントを使ってほしかった。
- 単語を個別に出すだけで終わらず、それを使った例文を提示するようにはどうか？
- 難しい発音で生徒が間違えた発音をしている様子が見られる。これは訂正しないのか？こういう場合は授業のテンポが崩れてしまったとしても、時間をとってチェックしても良いのではないかと？



Introduction

- (4) 自己紹介 (I am ~.) を聞かせた後に、This is ~. / He (She) is ~. を使った紹介文を聞く。
- (5) 違いを考えさせる。
- (6) 本時で使う表現の確認。

参加者から

- ▶ 今回の言語活動をやる、目的・場面・状況は何かがあいまいであるように感じられる。「実はこういう人なんだという意外性」の上の目標を設定する必要があるのではないかと？例えば「ALT からビデオレターがきて、それに返信するために練習する」というように練習する必然性と考える必然性を作ることが重要ではないか？
- ▶ テンプレートを与えず、まずやらせてみてどうか？今回の目標文型である he, she, is は小学校で音声としては導入済みである。例えば、先生が例を聞かせて、やっごらんという流し方もいいと思う。
- ▶ この活動が、学校の Can-do リストのどこに入るのかという位置づけを明確にすることが大切ではないか？
- ▶ be good at ~ については、いろいろな例を出すことが必要だと思う。ただ、be good at と出すだけで終わってしまうと、「He be good at tennis.」のような英文を作ってしまう生徒が出てしまうことがよくある。意味のある場面の中で使わせて、間違いさせて、それを共有していく中で英語を学ばせたい。

Activity

- (7) 自己紹介の内容を考えさせた後、ペアで伝え合う。
- (8) その後グループになって、自分のパートナーを紹介する。

授業者から

ペアで自己紹介する際に、「実は〇〇」というのを考えられない生徒が見られた。また、自分の自己紹介の練習を 30 秒設定したが、これは不要だったのではないかと考えているかどうか？

参加者から

- ▶ 中学校の時期に、自分の意外性を、自分から言うのは難しいのではないかと？誰か周りから言われるのであれば可能かもしれない。子どもの心理を考えてもっとシンプルな活動にしてもよかったと思う。
- ▶ 内容を考えて、英語を話すことが重要である。これが思考・判断・表現である。今回であれば「実は〇〇」を考えさせることが大切である。特に単元の後半に何か仕掛けを作って「実は〇〇」というのをしっかり表現させるように指導したい。「日本語でも出てこない」という理由で、この手のことは敬遠されがちであるが、これからの授業ではこういうことにチャレンジしていかなければならない。
- ▶ パワーポイントを使用しているが、文字だけ提示するのであれば黒板やフラッシュカーなどでもい



のではないか？

- ▶ 例えばお医者さんの画像を提示して、お医者さんの得意なことは？という自分ではない架空の設定を作ってみると生徒は話しやすいのではないだろうか？
- ▶ 伝え合う内容が大切。これがキラキラしたものになるような場面設定が大切だと思う。
- ▶ 1時間目に、単元の最後に生徒に言わせたいような英文を先生からインプットして、単元を通して、繰り返し聞かせることで段階的な指導をしてみてもどうか？
- ▶ 話す内容を子ども自身に考えさせないと思考・判断・表現の観点は表現できない。
- ▶ 単元の1時間目でここまで求めなくてもいいのではないか？もっとシンプルな活動設定でもよかったと思う。
- ▶ スピーチはスクリプトを書かせて読ませるだけではないと思う。キーワードだけにして、間違わせながらやらせてみるのが大切ではないか？

まとめ（授業内では時間が足りず、次の時間に行いました。）

参加者からの全体的な感想

- ◆ 勉強になることが多い授業であった。英語はコミュニケーションといわれるが、中学校には入試がある。コミュニケーションと入試指導とのバランス・折り合いをどうつけるか考えていかなければならないと思う。
- ◆ 中学校の実際の授業を見ることがなかなかないので、今日は有意義な機会であった。
- ◆ 最後のペアが発表する場面だが、あの形では、同じことを繰り返しているだけで新鮮味やドキドキ感がない。「グループ内の違う人を紹介しなさい」という形にすれば発表する必然性を作り出すことができると思う。
- ◆ 授業を見て、タスクの意味、なぜ？何のために？友達を紹介するのか？日本語ではなくなぜ英語でなければならないのか？などを明確に設定するのが難しいと思った。
- ◆ 「間違いを恐れず・・・」というが、テンプレートを生徒に与えずにやって、本当にできるのか不安である。
- ◆ 今日の研修会をとおして文法とコミュニケーションのどちらが大事なんだろうと考えた。これまで絶対文法の方が大切を考えていたが、入試問題にも対話文が出題される。バランスをとりながら指導していきたい。
- ◆ 自分が生徒として授業を受けていたら何とも思わないことが、授業にはたくさんあって、先生サイドにもいろいろ事情があるのだと思った。be 動詞は簡単そうで難しい文法項目だと思う。3年間かけて継続的に指導していきたい。その入り方としては非常に他の指導な授業でよかったのではないか？



- ◆ 進化的な授業、英語をたくさん使う授業であったと思う。発音の指導を丁寧に行う、テンポダウンする場面を作る。日本語を使用する場面を減らす、十分に練習してから自分のことを話すなどの順番を改善すればもっと良い授業になると思う。
- ◆ 音声から文字の順で指導することが重要だと思う。今日の協議会で「即興で話す」という意見がたくさん出された。人前で話す度胸をつけさせるような指導をすることも重要となると思う。
- ◆ 普段、実際に授業をされている先生の意見を聞くことがないので貴重な学びの機会となった。自分が中学校だった時は何気なく受けていた授業の裏側を知って、教師の仕事の奥深さを実感した。また、小学校に英語が入って、中学校はこれからどうなるのか考える必要があると感じた。工藤先生のような楽しい授業を受けている生徒はこれからも、英語が好きのまま上に上がっていけると思う。

丹藤先生から

- ◆ 工藤先生は夏の全国英語教育学会にも参加されるなど、いろいろな研究会で勉強されている熱心な先生である。
- ◆ 単元の1時間目である本時では、am/ is /are が、活動に入る前にちゃんと理解されているかのおさえが大事である。実際に活動に入る前に、これについて形成的な評価があれば、活動もスムーズに進んだのではないかと思う。
- ◆ 今後、中学校でも扱われる語彙数が増えるなど、指導内容が大きく増えることとなる。そのため、「自分でできることは自分でやらせること」と「授業でしか学べないこと」と分けて考えて、この2つの相乗効果を得ようとしていかないと、指導内容をすべてこなせなくなる。例えば、授業で単語の学び方を指導すれば、生徒は家で単語の勉強を自分ですることができる。そのためには、メタ認知能力・自己調整力を生徒に育てることが必要となる。自分の勉強の振り返りを自分でできるようになって初めて、子どもに学習を預けられるようになるのである。こうすれば、単語の勉強、ビンゴ、活動説明など、省くべきところが見えてくる。つまり、どうすれば時間を節約できるのか見えてくるのである。また、教師自身も、単元、学期、年間を俯瞰して、今やるべきことが見える、この一時間の役割がみえてくるようなメタ認知を鍛えることが重要であろう。
- ◆ 最後に、スピードトレーニングは大事だと思う。学校教育では「トレーニング的なもの」は敬遠するくらいがあり学校教育には欠けているものであるが、読むスピード、書くスピードなど、何かを早くやることができるようになるトレーニングが生徒にとって絶対必要である。

おわりに

工藤先生の授業からは、担当している生徒さんのために少しでもよい授業をしたいという思いが感じられました。夏休みの期間に学会に参加されたり、今日も（午前中、部活動の指導をした後）青森から研究会にくださったのも、同じ思いからだと思います。参加者の感想にもあったように、そんな先生から英語を教えてもらっている生徒は非常に楽しそうで、30問の単語テストという、一見すると過酷な学習にも全員が真剣に、前向きに取り組んでいました。普段から、授業改善に努力する姿勢を工藤先生が、自ら

英語指導研究会 — SPARTAN ENGLISH —



示していて、その背中を生徒たちは見ているからこそ、あのような授業の雰囲気は運ばれるのだろうなと感じました。同じ教師という立場になる自分としても身が引き締まる思いです。

授業の方法だけでなく、教師としての在り方という面でも非常に勉強になった研究会でした。工藤先生、ありがとうございました。

(文責：佐藤 剛)